

[住宅] インターネットの配線をすっきり納める弱電工事のコツ (住宅情報化推進協議会) -PR-

2006/03/25

新居でインターネットを使えるようにするには専用ケーブルを先行配線しておく必要がある。1台だけのときは、回線を住宅内に引き込んだ場所からパソコンを使う部屋までの配線が露出しないようにすれば済むが、複数部屋で使う場合はそうもいかない。さてどのように対策するか？ここにネット配線弱電工事のちょっとしたコツとアイデアがある！

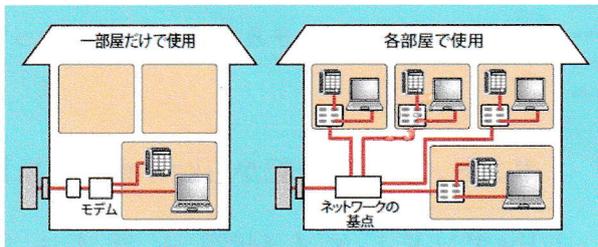
ダイヤルアップ接続を除く、ISDNやADSL、ケーブルテレビ、光ファイバーなどによるインターネット回線を複数の部屋で使うときは、各部屋への配線が必要だ。回線を住宅内に引き込んで最初に接続する機器類（モデムやルーターなど）を基点として、ケーブルを各室に配線する。

各室には、パソコンをつなぐための情報コンセントと呼ばれる端子も必要になる。このため、あらかじめ接続機器から各室への配線に注意をしておかないと、ケーブルは室内に露出してしまふ。

では、新築時にはどのような点に注意すればよいのか。電話線やテレビの回線だけでなく、インターネット回線を住宅内に引き込んでおくことは、1台だけで利用するときと同じだ。

複数台で接続するときにはこれに加え、?接続機器の設置場所を確保する、?接続機器から各室への配線にはサヤ管を用いて、太さも考慮する、?配線ルートを電気工事会社と確認し合って計画を立てる、の3点がポイントになる。

実例とともに説明しよう。例は光ファイバーを使ったときのものだが、接続機器から各室への配線方法は、ISDN、ADSL、ケーブルテレビの場合も同様になる。



サヤ管を利用すれば、将来の変更にも対応できる

収納の上部を機器の設置場所に

光ファイバーでインターネットを使いたい——弱電工事会社の譲工事サービス（神奈川県鎌倉市）は、建築条件付きの土地を購入し、住宅を建設中のSさんから相談を受けた。インターネットを利用する部屋は、リビング、洋室など5部屋だ。

複数の部屋でインターネットを利用するには、モデムのほかに、複数配線用の接続機器（ルーターとハブ）も必要になる。このほか、各部屋に配線するためのたくさんの端子も、こうした機器のすぐそばに設けなければならない。

接続機器の数が増え、設置場所によっては室内の雰囲気は損ないかねない。Sさんの希望は、ケーブルだけでなく、機器も露出させないことだった。機器の設置場所は、

@kenplatz_edさんをフォロー

1 シェア 0 ツイート 0

すぐ読める雑誌



日経アーキテクチャ
世界を呼び込むニッポン改造 [PDF]



日経ホームビルダー
1000人に聞いた 住宅の買い時は？ [PDF]



日経コンストラクション
8人の復興奮闘記 [PDF]



日経不動産マーケット情報
黒川紀章氏設計のランドマーク、三菱地所が再開発へ

Facebookもチェック



Facebookソーシャルプラグイン

現在 昨日 週間

どこでもよいというわけではない。アリスフォーラム開発部長の堀越快之さんは、「2階建ての木造住宅なら、2階の納戸や収納の上部、書斎の一角などが向いている」と話す。

手が届きやすいので、こうした場所ならメンテナンスもしやすい。電柱からの引き込み線の位置に近いので、配線も短くて済む。反対に、屋根裏やユニットバスの上などには、住まい手の手が届かない。季節や時間帯によって、温度や湿度も大きく変動する。機械の性能に影響することがあるので不向きだ。

当初Sさんは、接続機器を小屋裏に置くことを考えていた。だが、譲工事サービスでは、温度上昇による機器の故障とメンテナンスのしにくさを懸念。現場でSさんと打ち合わせて、2階洋室の収納の棚に設置することを提案した。

配線には、サヤ管を使うとよい。インターネットの接続に使うケーブル類は日々進歩しており、現在市場に出回っているものよりも、データを送る速度の速いケーブルが将来安価で手に入るようになる可能性もある。サヤ管に通しておけば、交換しやすい。

躯体を傷付けないよう配線ルートに気を配る

譲工事サービスでは通常、1本のケーブルを通すのに16φ径のサヤ管を使っている。14φ径では、配線や交換作業がしにくいためだという。

サヤ管を太めにして複数の部屋に配線するとすると、当然、スペースが要ることになる。壁体内に納めるためには、壁の仕様やプランを考慮し、できるだけ配管によって構造躯体を傷付けないようなルートを設定することが大切。現場監督は電気工事会社や大工と相談し、図面や現場を見ながら配線ルートを確認しておく。

配線計画をつくるには、住まい手の要望を正確に理解しておかなければならない。材料を調達したり、配線ルートを調整したりするにも多少時間がかかる。なるべく早い段階で、住まい手へのヒアリングを済ませておく。住宅全体の電源の設置場所や数を聞く段階で、ネット配線のことを聞いておくとよいだろう。

ヒアリングの項目は、?利用するインターネット回線の種類、?モデムやルーターの設置場所に関する希望、?ネットを使う部屋と必要な情報コンセントや電源の数、?電源や情報コンセントの位置などだ。

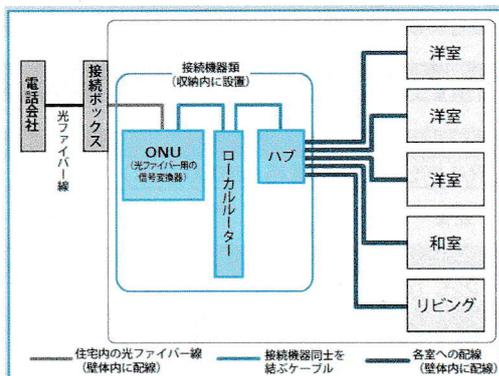
モデムとルーター、ハブの機能を1台に備えた機器もある。省スペース化を図りたいときには、こうした機器の選定を住まい手に検討してもらおう手もある。複数の部屋でインターネットを利用するときに、配線の煩わしさを解消するためには、「無線LAN」を使う手もある。ケーブルではなく、電波を使って接続機器とパソコン間でデータをやり取りするものだ。

ただ、ケーブルを使った接続に比べると、通信内容が“傍受”される危険性は高くなる。対策を施すことはできるのだが、セキュリティ面で不安を持つ人もいる。無線LANを使うかどうか、ヒアリングの際のポイントになる。

現場必携！タブレットが施工・維持管…
社員一丸！がけつぶちでBIMを始めた…
建設業でどう使う？個性あふれるタブレ…
お絵かきから図面まで！エクセル感覚…
ベテラン技術者が新入社員にBIM特訓…
いよいよ国も本気に！？ 土木分野での…
紙からの脱却！タブレット端末が現場…
建設業界未経験！ベンチャーが顧客志…
ITで効率化！海外でも評価される日本…
4D、5Dでムダ削減！大林組JVが…

ランキング更新：7日8時20分

[住宅] インターネットの配線をすっきり納める弱電工事のコツ(住宅情報化推進協議... 3/4 ページ)



配線計画を立てるSさんから、購入した機器類の連絡と、構成の提案があった。これを基に、情報コンセントの位置や配線ルート、必要なケーブル類を確認